

平成30年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

国語科 平成30年度重点目標		
項目1	目標	① 各学年または到達段階に応じた国語の力を生徒に身につけさせる。
	達成方法	① 漢字テストや単語テスト、文法テストなどの小テストを定期に実践する。また、読書や副教材やプリントを用いた課題(宿題)を課題として与えることで、家庭学習においても自発的に国語の学習に取り組めるようにする。
		・中学では読書指導や新聞作り百人一首の暗唱などの活動を通じて文章や言葉に常に興味を持たせていく。
		・中学段階から論理的に物事を考え、理解するための言葉や文章を身につけ、高校段階では、現代文を通じて現代のさまざまな問題に対して多角的な見方や考え方があることを知り、視野を広げて物事を考えられるようにするとともに、自分の考えを筋道立てて表現できるようにする。
・古典を通じて歴史や文化の特色を理解するとともに、文法や句法の分析を通じて読解を深め、問題を解決できる力を養成する。		
項目2	目標	② 生徒達が積極的に国語の学習に取り組める授業を実践する。
	達成方法	② 授業では、音読の機会、発問の機会、生徒達の発表や発言の機会をできるだけ多く増やし、受け身ではなく主体的に授業に参加させていく。多種多様な文章を多く取り上げて扱うことで、読解力や表現力の基本となる多くの語彙やさまざまなものの考え方や感じ方に触れさせ、習得させていく。
		・タブレットの活用と、「受験サプリ」などの自習教材アプリを活用し、能動的な学習を習慣化させる。
項目3	目標	③ タブレットや電子黒板を用いて、音声教材、映像教材を取り入れた五感を刺激する授業を実践する。
	方達成	教員間で密に連携しながら、授業研究を深める。授業見学なども積極的に行う。本文掲載や板書補助、映像や音声資料を電子黒板で積極的に活用する。タブレットの活用により、意見、発言のアウトプットを促す。
項目4	目標	④ 生徒の進路実現の為に、個別に親身になって生徒に対応する。
	方達成	成績不振者(定期考査・小テスト)には放課後や長期休業中に課題や補習を課してボトムアップをはかるとともに、生徒のニーズに応じ、授業や放課後講習などで積極的に演習(入試問題演習)を実践して、能力を伸ばしていく。
地歴公民科 平成30年度重点目標		
項目1	目標	学びの三要素(「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学びに向かう姿勢」)の育成につながる、ICTを駆使したアクティブラーニング授業の展開と充実
	達成方法	課題探究や協働作業などの観点を踏まえた評価を行うと同時に、それらを評価するための授業展開を研究・確立する。 議論の仕方やプレゼンテーションスキルの育成を授業内で定期的に行う。さらに、昨年度までも個々にICTを駆使したアクティブラーニング授業を展開してきたが、個々の取り組みを教科全体で共有する機会にしかつた反省を踏まえ、共有する機会を積極的に設け、研究授業を定期的実施する。
項目2	目標	大学入試改革に合わせた考査の作成や受験指導方法の確立
	達成方法	知識・技能の習得はもちろん、思考力・判断力・表現力の発達度を正確に測るための考査を作成する。その際、論述問題数が増加することが予想されるが、教員個々に採点基準が異なることで能力の育成に差異が生じないように、教科共通のルーブリックを作成していく。
項目3	目標	学習指導要領改訂に先んじたカリキュラムの検討・完成
	方達成	上記2つの目標の達成がよりスムーズになるために有効なカリキュラムを検討・完成していく。また地歴公民科だけでなく、他科目とも連携できる教科横断型のカリキュラムを提案していくことも視野に入れる。

平成30年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

数学科 平成30年度重点目標		
項目1	目標	授業の質の向上
	達成方法	反転授業を取り入れ、演習量を増やすと共に、アクティブラーニングを活用し生徒の積極的な活動を促す。 研究授業による振り返りを行う。また積極的な授業見学を行い、意見交換をし、科としてのスキルアップを図る。
項目2	目標	ICTの活性化
	達成方法	タブレットを使った授業の実践。スタディサプリを用いて予習など自学自習を促したり、自分の作った解答を交換し合い、自らの学習姿勢を整える。 模試や、大学入試問題の解説をビデオに撮り、インターネット上でいつでも自学自習できる環境を整える。
項目3	目標	基礎学力の定着
	達成方法	MMTや小テスト等のこまめな実施。合格点を設け、合格するまで丁寧に指導していく。
		外部模試を検証し、弱点を随時把握し、講習等を用いて補強していく。
中学3年生、高校1年生は数学検定を全員受検。他学年においても推奨していく。		
項目4	目標	変わりゆく大学入試への適切な対応
	達成方法	大学の入試問題を解き、教科で研究し情報共有する。また、その入試問題の特徴をシートにまとめ、生徒へ情報還元する。 研修などに参加し、教科で情報共有する。
理科 平成30年度重点目標		
項目1	目標	①理科に興味関心を抱き、生徒自らが進んで学習し、基礎学力の定着および成績向上する。
		②高校の生徒が大学受験に対応できるような授業展開および教科研究をする。
	達成方法	①授業中は、生徒が主体的に学習活動を行えるように、実験や実習を多く取り入れる。 実験や観察が困難な単元では、講義型の授業だけにならないように、書く・考える・発言する・話し合いなどを多く取り入れる。 授業内に小テストや振り返りを行うことにより、生徒自身が知識の定着を図れるような授業展開をする。
		②知識の定着とともに、問題演習を行うことにより、より発展的な知識理解ができるような授業展開および考査を実施する。
		教科内での教員が情報共有を行い、受験指導は教科全員で行う。
項目2	目標	タブレットや電子黒板を効果的に使った授業を行う。
	達成方法	学年及び科目ごとに、より効果的な教材を作成し、共有する。 タブレットを使った授業では、授業中だけではなくロイロノートを使用しての復習や宿題、スタディサプリを活用した予習・復習などを行うことにより、家庭学習でも効果的に使えるように生徒に提案する。
項目3	目標	学年・クラス・コースごとに目的をもった教科指導を行う。
	達成方法	高校3年生は、受験生指導として幅広い成績層の中で志望校別・レベル別など対応する。
		高校2年生は、3年生から受験演習にスムーズに入れるように基礎学力の定着を図り、演習問題への着手を目指す。
		高校1年生以下は、新テストに向けて教科研究を教員が行うとともに、生徒にはプレゼンやディベートなどの発表の場を設けて企画・発表力向上を目指す。
理科としての学力だけではなく、グローバル教育や環境問題なども視野に入れながら授業展開を行う。		

平成30年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

保健体育科 平成30年度重点目標		
項目1	目標	電子黒板・タブレットのICTを十分に活用して授業の実践を図る。 授業を、運動学的に、わかりやすく説明・展開していく。
	達成方法	実技では、タブレットで自分の運動を撮影し、確認修正をしながら技術の向上を図る。 グループ学習を通し、アクティブラーニングの実践。
項目2	目標	生涯に通じる、運動の実践を理解させる。
	方達成	健康の大切さを認識させ、日常生活の中で積極的に運動を取り入れるようにする。
項目3	目標	体育の授業実施にあたり、教員全員が共通の認識を持ち、指導の一貫性を図る。(礼儀・時間厳守・思いやり・身だしなみ・協調性)
	方達成	年度初めに生徒全体に向け、授業の心得を熟知させ、授業を受ける態度や意欲など授業を通じて礼儀の重要性を認識させる。
芸術科 平成30年度重点目標		
項目1	目標	学力向上に向けて21世紀型アクティブラーニングを授業の中に取り入れていく また、電子黒板、タブレットなどのICTを使って、よりわかりやすく、深い授業を展開していく
	達成方法	・授業の中で生徒同士、生徒と教員の意見交換相互理解の時間をもち「気づき」を深める ・授業の内容に応じて電子黒板、タブレットなどのICTを利用して、課題の理解を深めさせる ・タブレットの記録機能を使い、自分たちの演奏、作品を客観的に知ることにより、高いレベルの演奏、作品を目指し、自主的に進める力を養う
項目2	目標	丁寧な対面教育を心がけ、生活習慣の基礎を身に着けさせる 芸術活動を通じて「目標に向かって諦めずに努力し、達成感を味わい」、「豊かな心」を養い、培う
	達成方法	・授業での挨拶、姿勢、態度にも気を配り、生活習慣の基礎を身に着けさせる ・音楽・美術・書道それぞれの科目の中で、与えられた課題に対しての意味を考え、目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢を養う ・高い目標を設定し、目標を達成するために仲間と協力し、その過程で生じる様々な問題を自ら解決していく力を育てる
項目3	目標	芸術を通じて地域活動に参加する
	方達成	・地域での芸術活動(コンサート、展覧会等)に積極的に参加し、地域活動の大切さを気付かせる

平成30年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

外国語科 平成30年度重点目標		
項目1	目 標	「実践的英語力」を目指した英語の授業の充実を目指す。
		英語をコミュニケーションの道具として理解し、実際の場面で使えるようにする。
		英語学習が目的ではなく、生徒それぞれの目的を達成するための強力な力であるという認識を生徒も教員も全員で共有する。
	達 成 方 法	・クラスルームイングリッシュを多用し、生徒の多様な英語活動を授業に取り入れる。日本人教員は50%以上英語を使用する。
		・オンライン英会話を週1回行うことで、英語での実践的な会話力を養う。それによって英検の取得率を上げる。
		・アクティブラーニングを実践し、ピアサポートの中で生徒が英語でコミュニケーションを取るようになる。
・タブレットのロイノートを使って、生徒がグループワークで課題プレゼンテーションを英語でするように指導する。		
・外国語発表会でのプレゼンテーションコンテストの指導を通して、生徒が大勢の人に対して自分の意見を英語で効果的に発表できるようにする。		
・ディベートの指導を通して、生徒が相手の立場を理解して、論理的に考え、自分の考えを相手に効率的に英語で伝えられるようにする。		
項目2	目 標	大学合格率の向上を推進する。
		アドバンストクラスの生徒は国立・私立難関校に過半数が受験するようにする。受験した生徒の過半数が希望校に進学するようにする。
		コアクラスの生徒はGMARCHレベルの大学に過半数が受験するようにする。受験した生徒の過半数が希望校に進学するようにする。
		GLC生は、海外大学を含めたSGUへ過半数が受験するようにする。受験した生徒の過半数が希望校に進学するようにする。
	達 成 方 法	・電子黒板の活用を促進する。教科書本文の解説、英文法や英語構文の分析・解説を電子ペンを使ってわかりやすく行う。
		・パワーポイントを利用して、動画やイラストを見せたり、アニメーション機能を使って英文を立体的に理解できるようにする。
・デジタル教科書のフラッシュカード、スラッシュリーディング、シャドーイングなどの機能を使って生徒の理解を促進する。		
・タブレットのスタディサプリEnglishで家庭学習を促進し、英語の合計学習時間を学校での授業時間の2倍以上になるようにする。		
・授業のスピードを上げ、教科書を早く終わるようにし、次年度に残さない。余裕の時間を利用し模試対策を授業時間内に実施する。		
・早朝・放課後の補習体制を整え、理解の遅い生徒を助け、生徒の全体的なレベルアップに繋げる。		
項目3	目 標	グローバルリーダースクラス(GLC)の充実を図る。
		GLCの授業活動が牽引力となってアドバンストクラスの英語の授業が変化するようにする。コアクラスにも会話に使える基礎力をつける。それによって、学校全体が「グローバル」の意識を持って、世界の課題を理解し、主体的に考えて行動するようにする。
		英語だけでなく第二外国語としてのフランス語の教育の普及を促進する。
	達 成 方 法	・ネイティブと日本人教員の協力を進め、教員間の英語でのコミュニケーションを密にする。教科会での英語の使用を多くする。
		・英語の授業を教員がお互いに参観する。必ず授業後の意見交換をする。
		・校外の様々な研修会に英語教員が積極的に参加する。また校内で英語ディベートの研修を行い、英語表現にディベート学習を導入する。
・他教科の教員と連携を深める。特に生徒が日本語でディベートが出来るように、校内の環境を整える。		
・海外提携校との連携を深める。帰国した生徒同士が交流する機会を多くする。両校の教員同士が互いを理解し新たな企画をする。		
・外国語発表会やコリブリの交流・留学を通じてフランス語の学習を盛んにする。仏語のネイティブの授業環境を準備する。		

平成30年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

家庭科 平成30年度重点目標		
項目1	目標	・21世紀型のアクティブラーニング授業を展開し、「自ら学ぶ姿勢」を身に付け、生徒自らが実践していくように導き、自ら課題を見つけ、解決する姿勢に導くことのできる、質の高い授業を展開できるようにする。
		・技術分野で、将来、プログラミン教育を取り入れていけるよう準備を進める。
		・グローバル人材育成の取り組みの充実を図るため、可能な場面での英語の使用機会をつくる。
	達成方法	・質の高い授業展開を目指して、電子黒板・タブレットなどのICTを充分活用した指導ができるよう、自己啓発し、開発、研修に力を注ぐ。
		・女子に受け入れやすい分野のプログラミングの分野を研究し、生徒がアルゴリズムを理解し、自ら組み立てられるようにする。
		・調理実習など、できる範囲で英語を使用する。
項目3	目標	・「目標に向かって最後まで諦めず努力する姿勢」を 培える場面を多様に配置する。
	達成方法	・実習・課題、検定等を通し、成功体験を重ね、自らの行動に自信と誇りを持つことができるようにする。
		さらに、最後まで諦めず努力することの素晴らしさや、やり遂げたときの晴れやかな達成感を体感することで、さらにその気持ちを高められるようにする。
また、実習では、完成品を評価し、次に生かす工夫と技術の向上が目指せるようにする。		
情報科 平成30年度重点目標		
項目1	目標	ICTを活用する授業の実践
	達成方法	・ロイノート・スクールやmanabaなどのクラウドシステムを活用した授業を実践する。 ・ICT活用委員会と連携し、システムトラブルやアプリケーションのアップデートに対応しつつ、授業を円滑にすすめられるよう校内のICT環境の整備に努める。
項目2	目標	生徒が積極的に参加する授業の実践
	達成方法	・オフィスソフトについて、基本的な操作方法の習得だけでなく、実践的に活用できるように、演習を中心にして、生徒が自ら学び考えて効率の良い操作方法を身につけるように促す。 ・ディスカッションやグループ発表形式を実践することで、知識習得だけでなく主体的に考えて行動できるようにする。
項目3	目標	社会の変化や最新のICT技術に対応する
	方達成	・最新のICT技術の動向を常に注視し、外部研修会や展示会等に積極的に参加し教員間での情報共有に努める。それらを授業に還元できるよう努める。